

# あいちの子供たちの声

本計画を策定するにあたり、県内約 10,000 人の子供たちの声を聞きました。子供たちの「こんな学校になったらいいな」「こんな授業が増えるといいな」という声を、これからの学校教育を進める上で大切にしていきたいと思います。また、読書について思っていることや、大人になってから学びたい、活動したいと思っていることについても、これからの施策のヒントとしていきます。ご協力ありがとうございました。

## ○ 意見を寄せてくれた子供たち

6月に県内約 10,000 人の子供たちにWebによるアンケートを実施しました。

小学6年生 3,003 名

中学3年生 3,143 名

高校3年生 2,718 名

特別支援学校 333 名

大学生 98 名 計 9,295 名

## ○ ワークショップによる意見交換

8月9日（土） 会場：白壁庁舎

代表者 16 名に集まっていたき、ファシリテーターによる聞き取りを行いました。

小学6年生 4 名

中学3年生 4 名

高校3年生 4 名

特別支援学校生徒 2 名

大学生 2 名 の計 16 名



写真は仮



## ◆子供たちの声◆ きまりについて

小：ルールで何でダメなんだらうっていうルールがあるから教えてほしい（シュシュをつけてはダメな理由など）

高：体育中のストッキングは禁止、だとか靴下は膝下のみ、だとかといった意味不明かつ時代錯誤は校則の廃止。

大：考え方が古すぎる校則などがあり、生徒が納得できないものもあるため、時代に合ったものを考えると良いと思う。

校則の策定や見直しの過程で児童生徒が関与することについては、自ら校則を守ろうとする意識の醸成につながるとともに、身近な課題を改善する経験となるなど、教育的な意義があります。学校のルールについて、教員と児童生徒が一緒に考える機会を設けることや、ルールの見直しに児童生徒が関与する取組を推進します。

## P〇〇 基本施策8 豊かな心を持ち実践力を伴った道徳性・社会性の育成

### ④ 主権者教育の推進

## ◆子供たちの声◆ 親や先生以外の人に相談したい

小：親に言わなくてもカウンセラーなどの先生に相談できるルールなどがほしい。親になかなか言えない人や、担任の先生に言いにくい人もいるから。

愛知県では、臨床心理士に相談できる 24 時間電話相談や SNS（LINE）を活用した教育相談窓口を開設しており、相談先の書かれたポスターを各教室に掲示したり、県Webページに掲載したりしています。親や学級担任に言いづらい場合は、保健室を通じて、スクールカウンセラーに相談できることを伝えるとともに、電話・SNSで直接相談できることを各学校で説明しています。

## P〇〇 基本施策9 不登校児童生徒への支援の充実

### ② スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携

## ◆子供たちの声◆ 読書はした方がよい

小：最近小説を思いきって読み始めました。そしたら、とても面白く、国語の授業もなんとなくついていけました。なので、読書はしたほうが良いと思います。

中：本は基本的に客観的視点かつ、自分ではない者の視点で描かれるので、視点が広がり、語彙力を増やし、感受性を高める効果がある。

特：自分が知らなかった事が分かりますし、自分から調べるという自立心・好奇心にも繋がると思います。と思う。また、道徳心を高め読み終えた後の達成感や知識も増えていく。

「読書はした方がよい」と考えている子供がいる一方で「部活で忙しく、全然読めていない。」「ネットでなんでも検索できる」などの声もあり、子供たちの読書についての意識が様々であることがわかりました。読み聞かせの意義や読書の重要性を紹介するリーフレットをWebページに掲載するなどの取組を進め、読書活動を推進していきます。

## P〇〇 基本施策12 生涯学習の推進に向けた、支援体制の充実

### ② 読書に親しむ態度の育成